

ODIP 4.4 修正パッチ (P1040403005835) リリースノート

2024/4/12

(株) インテリジェント・モデル

ODIP は、(株) インテリジェント・モデル社の登録商標です。

本書に掲載された情報に基づいた行為の結果として発生した損害、利益の損失、経費などについて、(株) インテリジェント・モデルならびに本書の製作関係者は一切の責任を負いません。

本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部を無断で転載・複製することは法律で定められた場合を除き、禁止されています。

目 次

| | |
|-------------------------------------|---|
| A. 変更内容 | 4 |
| 1. COBOL 固定長ファイルのビット項目入出力機能追加 | 4 |
| 2. その他の修正..... | 6 |
| B. パッチ適用による影響 | 6 |
| C. パッチの適用方法..... | 6 |
| 1. ライブラリファイルの更新..... | 6 |
| 2. パッチ適用後の確認..... | 7 |

A. 変更内容

1. COBOL 固定長ファイルのビット項目入出力機能追加

データセットのカラム定義の COBOL データ型に、1 バイトの各ビットが 0 または 1 の値を表すブーリアンデータ(以下、ビット項目といいます)の PICTURE 指定、「1(n) USAGE BIT」を追加しました。この指定によって、COBOL 固定長ファイル上 1 バイトのブーリアンデータを、ODIP 上の文字列型または数値型の属性として入力または出力することができます。

(1) COBOL データ型の追加

ODIP アドミニストレータのデータセットのカラム定義の COBOL データ型の選択肢に表 1 のデータ型を追加しました。

表 1 追加した COBOL データ型

| COBOL データ型 | 仕様 | バイト長 | ODIP データ型 |
|----------------|---|------|--|
| 1(n) USAGE BIT | n はビット数を表し、1~8 の整数を指定。カラムタイプが固定長文字型 (c)、可変長文字型 (v)、数値型 (p) の属性に対してのみ有効。 | 1 | c(m)、v(m)…m は、n 以上 p(m,0)…m は 3 以上の整数 |

(2) BIT 関数の追加

数値型ビット項目のビットのオン・オフを調べるため、表 2 の組込関数を追加しました。

表 2 追加した関数

| 関数 (引数) | 機能 | 引数 |
|-----------------|--|--|
| #Bit(数値, ビット位置) | 0~255 の整数の指定された位置のビットのオン、オフを 1 または 0 の数値で返す。 | 数値: 0~255 の数値または数値型の属性を指定 ビット位置: 左端を 1 とするビット位置を 1~8 の整数で指定 |

(3) ビット項目の入出力及びビットの参照

COBOL 固定長ファイルのビット項目を入力時、1 バイトを文字型 (最大 8 文字) または数値型 (0~255 の整数) に変換して読み込みます。出力時は文字列または数値を 1 バイトに変換して出力します。「1(n) USAGE BIT」の指定で、n のビット数に合わせた入出力を行います。FILLER のビット項目には 0x00 (16 進数表記) を出力します。

① 文字列型の属性を使用する場合

ビット項目の各ビットを半角数字の“0”または“1”とする文字列として扱います。データセットのカラム定義上の文字列の長さは、ビット数 n 以上でなければなりません。文字列の長さが n よりも大きい場合、n を超える部分には“0”が埋まります。例えば、文字列型の入出力は次のようになります。

- ・ データタイプ c(8)の属性に、COBOL データ型「1(8) USAGE BIT」のデータの値 01010101b を読み込むと、属性の値は、“01010101”になります。
- ・ データタイプ c(8)の属性に、COBOL データ型「1(4) USAGE BIT」のデータの値 01010101b を読み込むと、属性の値は、“01010000”になります。
- ・ データタイプ c(8)の属性の値“01010101”を、COBOL データ型「1(8) USAGE BIT」として書き込むと、01010101b になります。
- ・ データタイプ c(8)の属性の値“01010101”を、COBOL データ型「1(4) USAGE BIT」として書き込むと、01010000b になります。

文字列型の属性を使用してビット項目を参照する際には、SUBSTR 関数等を使用して該当する位置の文字を切り取り、文字値 (“0”または“1”) を評価することができます。

② 数値型の属性を使用する場合

データセットのカラムのデータタイプを数値型 (p) とするカラムは、ビット項目を 0~255 の整数として扱います。ビット数 n の指定に合わせて、n を超えるビットには 0 を埋めます。例えば、数値型の入出力は次のようになります。

- ・ データタイプ p(3,0)の属性に、COBOL データ型「1(8) USAGE BIT」のデータの値 01010101b を読み込むと、属性の値は 85 になります。
- ・ データタイプ p(3,0)の属性に、COBOL データ型「1(4) USAGE BIT」のデータの値 01010101b を読み込むと、属性の値は 80 (01010000b) になります。
- ・ データタイプ p(3,0)の属性の値 85 を、COBOL データ型「1(8) USAGE BIT」として書き込むと、01010101b になります。
- ・ データタイプ p(3,0)の属性の値 85 を、COBOL データ型「1(4) USAGE BIT」

として書き込むと、01010000b になります。
数値型の属性のビット値を参照する場合は、BIT 関数を使用して特定のビットを評価することができます。

2. その他の修正

- (1) COBOL 固定長ファイルへの出力で SUBSTRB 関数や CONCATB 関数などを使用する場合、データソース情報で設定したエンコーディングが使用されず、期待したバイト数での切り出しなどができない問題を修正しました。

B. パッチ適用による影響

既存の定義への影響はありません。

C. パッチの適用方法

本パッチは、次の ODIP 製品に適用してください。

- ODIP アドミニストレータ v4.4
- ODIP オペレーションマネージャ v4.4
- ODIP リポジトリマネージャ v4.4
- ODIP プロセスマネージャ v4.4
- ODIP リポジトリサーバ v4.4
- ODIP トランスフォーマ v4.4

1. ライブラリファイルの更新

実行中の ODIP 製品を終了し、ODIP_P1040403005835 フォルダに格納されているライブラリファイルを、表 3 のファイルのコピー先に上書きコピーしてください。

表 3 ODIP_P1040403005835 のフォルダ構成及びファイルのコピー先

| ODIP_P1040403005835 | ファイルのコピー先 |
|---------------------|-----------------------------|
| lib | |
| ADM | ODIP アドミニストレータの lib フォルダ |
| OPE | ODIP オペレーションマネージャの lib フォルダ |
| RPM | ODIP リポジトリマネージャの lib フォルダ |
| RPS | ODIP リポジトリサーバの lib フォルダ |
| TFM | ODIP トランスフォーマの lib フォルダ |

2. パッチ適用後の確認

パッチ適用後は、各製品を起動し、表 4 の確認方法に従って確認を行ってください。

表 4 パッチ適用後の確認方法

| 製品名 | 確認方法 |
|-------------------|---|
| ODIP アドミニストレータ | ヘルプメニューから“ODIP について”を選択し、表示されたすべてのビルド ID が 1040403005835 であることを確認してください。 |
| ODIP オペレーションマネージャ | |
| ODIP リポジトリマネージャ | |
| ODIP プロセスマネージャ | |
| ODIP リポジトリサーバ | ODIP リポジトリマネージャのツールメニューから“ORMS サーバ情報”を選択し、“バージョン情報”タブを開き、表示されたすべてのビルド ID が 1040403005835 であることを確認してください。 |
| ODIP トランスフォーマ | ODIP トランスフォーマを起動し、showserver コマンドを、オプションに“-info version”を指定して実行してください。表示されたすべてのビルド ID が 1040403005835 であることを確認してください。 |

以上